

心のバリアフリー教育の推進

< 今年度の取組等紹介 Vol.15 >

「心のバリアフリー教育グッドプラクティス」顕彰校紹介

顕彰校における他の学校に参考となり優れた成果のあった実践内容等を紹介します。

【優秀賞】

銚子市立第三中学校



地域住民、保護者等とボッチャ体験会

実践内容

- ① パラスポーツを通したさまざまな活動
 - ・オリパラをテーマにした新聞の掲示
 - ・『I'm POSSIBLE』教材を活用した授業
 - ・保健体育の授業でボッチャ体験
 - ・地域住民、保護者、職員とボッチャ体験会
 - ・パラリンピアンによる講話・パラスポーツ体験（あすチャレ！スクール）
- ②福祉教室
 - ・認知症サポーター養成講座の開催

実践成果（生徒の変化等）

- ・ボッチャは、チームで話し合いながら次の一投を決めるため、自然と全員がコミュニケーションをとることができるようになった。
- ・ボッチャ体験を行うことで、年齢や性別、体力、体格など関係なく楽しめる競技であることを実感した。
- ・パラリンピアンから実際に話を聞くことができた。あきらめないことや挑戦することの大切さを理解し、大きな目標を立てられるようになった。

【優秀賞】

県立東金特別支援学校



「パラスポ」キャラバン

実践内容

- ①パラスポーツ推進隊（パラスポ推進隊）
 - ・市民へのボッチャの紹介
 - ・1000か所ミニ集会でボッチャの紹介および実技交流
 - ・近隣の小学校や中学校とパラスポーツを通じた交流（「パラスポ」キャラバン）
- ②パラアスリートとパラスポーツ体験・交流（あすチャレ！スクール）
 - ・メダリストによる講話、体験活動

実践成果（児童の変化等）

- ・学校や地域からの派遣依頼が増え、パラスポ推進隊の児童生徒の意欲が向上している。
- ・「やってよかった」「次もがんばろう」という気持ちを持ち、運動会や文化祭等学校行事の中でリーダーや委員として主体的に活動する様子が見られている。
- ・色々なスポーツにチャレンジしたい、学校でみんなに紹介したいと発言する生徒も増えてきた。